

西新井宿の初午祭り

初午祭りとは全国の稻荷神社の総本宮の伏見稻荷の神様が降臨したのが和銅4年(711年)2月11日でその日が初午であったことから2月の初午の日が縁日になったそうです。しかし、この西新井宿では3月の初午の日に行っています。神根地区の「神根村誌」という文献にも「当村の年中行事は家庭又は大字によつて多少の相違はあるが、大体において一ヶ月遅れである」として、2月に年始参り、4月にひな祭りというように、神根村においては新暦になって以後も節句・年中行事は旧暦に従ったようです。

西新井宿には村のお稲荷さんが3つあり、それぞれの講中の
人達が順番で当番を務め、宵宮(前夜)から準備をして神様に御
馳走をつくり、お酒、農作物などを奉納します。雪が降っていたの
でさむかったでしょうね。



西新井宿氷川神社の境内にある稻荷社



稻荷社の内部、お供物の数々。榊、お神酒、油揚げ、赤飯、野菜・果物など



122号線のマクドナルドの隣にある笠間稻荷。



こここの講中の人たちは雪の降る中6時から出たそうです。7時にはお参りに来る人がいるそうです。以前はお酒をふるまって賑やかだったそうです。



笠根の伏見稻荷。左に階段がありますが、ここは富士塚だそうです。



笠根稻荷の内部。ちっこいキツネがかわいらしい。



手前にある庚申塚。横には「延享元年(1744年)12月西新井宿村笠根講中」と彫られている。このあたりではお寺ではなく、あちこちに庚申塚が点在していますが、笠根とか南原とかト伝だとか字(あざ)ごとに庚申講があったと思われます。

初午は元々その年の豊作祈願が原型といわれていて、それに稻荷信仰が結びついたそうです。その意味ではこの地域はまだ農村なのだということを思い出させる貴重な文化だと思います。

AGC 新井宿駅と地域まちづくり協議会

2017. 3. 17